

ショートコメント vol.260 (2022年10月21日)

テーマ：アジア NIEs 向けの輸出鈍化に対する警戒
～世界的な IT 機器の需要減に連動した動き～

●関西の輸出動向

関西の最新の輸出動向が発表された。

前月は電機関連の鈍化など、いくつかの異変がみられたため、その後の推移が注目された。図表1をみる限り、直近の9月は好調を取り戻した感がある。電機以外の動きをみても特に異変はなく、全体として堅調に推移している。

前月の動きを振り返ると、特に電子部品の大幅な減少が目をつけたが、その主因は台湾や中国での IT 機器の生産不調であった。特に、台湾は中国向けの輸出が減少するなど、厳しい動きがみられた。

直近9月の動きをみる限り、電子部品はプラスに戻っており、ひとまずは一時的な減少にとどまったと判断される(図表2)。

●電子部品の輸出状況

ただし、電子部品の輸出先別の動きをみると、必ずしも楽観はできない。アジア NIEs (韓国、台湾、香港、シンガポール) 向けは依然として減少が続いているだけでなく、中国向けの戻りも強いとはいえない(図表3)。特に、アジア NIEs 向けは3か月連続の前年割れであり、まったく楽観できる状況ではない。

アジア NIEs 向けの悪化要因は、主に台湾向けの鈍化が中心とみられる。目下、世界的な IT 機器の需要減少が指摘される中、台湾での関連生産の不調が、関西からの輸出鈍化につながっている可能性が高い。

●PCの世界市況の悪化

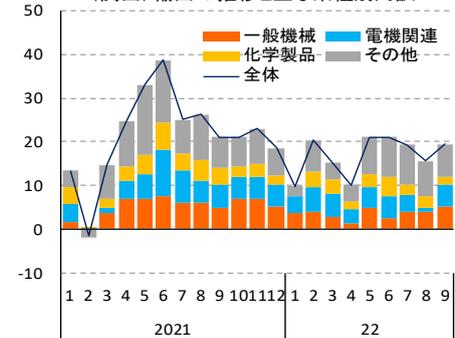
世界的な IT 機器の需要減少は、特にPCで顕著となっている。

景気の後退やインフレの進行、コロナ禍による需要増の一巡など、様々な要因で需要が落ち込み、過去数十年で最悪の市況ともいわれる。

中国 Lenovo や米国 DELL、HP、台湾 ASUS といった世界大手の販売が前年比で軒並み2ケタ減となる中、OEM生産の多い台湾では、大きな影響が広がっているとみるべきであろう。

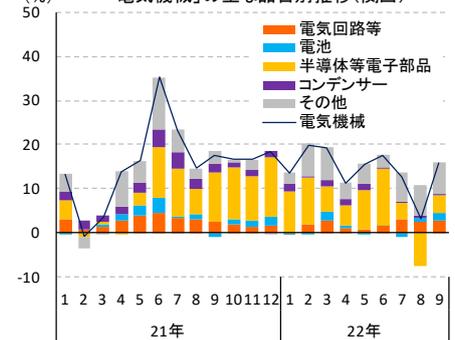
市況の悪化要因をみる限り、長引く可能性が否定できない。それに伴い、関西からNIEs向けの電子部品の輸出鈍化も続く恐れがある。PC市況に加えて、中国でのスマホ販売の悪化も取りざたされる中、当面は電子部品の輸出悪化に対する警戒が必要とみられる。

【図表1】 (関西)輸出の推移と主な業種別内訳

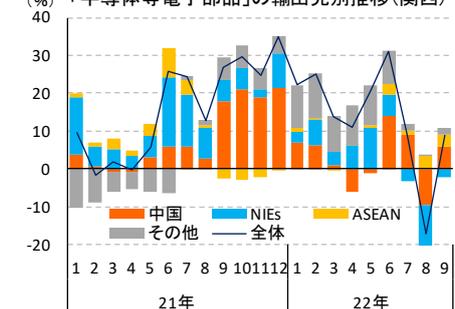


(出所)財務省「貿易統計」、以下同じ

【図表2】 「電気機械」の主な品目別推移(関西)



【図表3】 「半導体等電子部品」の輸出先別推移(関西)



本件照会先：大阪本社 荒木秀之
TEL : 06-6258-8805 mail : hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。